

第55回技能五輪全国大会を振り返って

職業能力開発総合大学校
技能五輪全国大会技術委員長 岡部 眞幸

1. はじめに

厚生労働省、中央職業能力開発協会、栃木県の主催のもと、第55回技能五輪全国大会が2017（平成29）年11月下旬に栃木県内で開催され、23歳以下の青年技能者が「技」の日本一を競い合った。

本稿では、第55回技能五輪全国大会（以降、「全国大会」または「栃木県大会」という。）に関わる大会情報^[1]を活用し、その分析結果を図式的に見える化することで、大会規模、参加選手の動向、競技成績と都道府県の活躍状況等を振り返ってみたい。

2. 栃木県大会の実施状況

2.1 大会日程

公式会期は2017（平成29）年11月24日（金）から27日（月）であり、次の標準的なスケジュールで全国大会が実施された。24日（金）は職種ごとの競技会場下見（午前）と全体的な開会式（午後）、25日（土）と26日（日）は職種別の競技実施、また26日の午後から夕刻にかけて職種ごとの採点作業と技術委員会、そして27日（月）は午前中の閉会式での成績発表と表彰式である。全国大会の競技時間には制限が設けられており、2日間で12時間以内かつ1日の作業時間は7時間以内である。なお、一部の職種については、後述のように公式会期に先行して競技が行われた。

2.2 競技職種及び競技会場

栃木県大会で実施した競技職種は表1に示す5分

野2系の42職種である。このうち、職種番号42の「移動式ロボット」は、全国大会の正式種目として今大会から新たに実施された職種であり、競技課題は技能五輪国際大会（以降、「国際大会」という。）の内容に準じている。

上記の42職種の競技は、図1に示す栃木県内の17の競技会場で分散して行われた。これらの会場は小山市から那須塩原市までJR宇都宮線に沿って南北に広く分布して設営されている。この17という会場数はこれまでの最大の18会場に次ぐ規模であり、今大会では総じて体育館の利用が多かった。

このうち、宇都宮市の栃木県体育館は、開会式と

表1 栃木県大会の競技職種の分野別一覧

職種分野	職種番号・職種名
機械分野・機械系 (11職種)	01 機械組立て、02 抜き型、 03 精密機器組立て、04 メカトロニクス、 05 機械製図、06 旋盤、07 フライス盤、 10 木型、29 自動車工、41 時計修理、 42 移動式ロボット
機械分野・金属系 (5職種)	08 構造物鉄工、09 電気溶接、 12 自動車板金、13 曲げ板金、 35 車体塗装
電気分野(2職種)	16 電工、17 工場電気設備
電子情報分野 (4職種)	15 電子機器組立て、 37 ITネットワークシステム管理、 38 情報ネットワーク施工、 39 ウェブデザイン
建築・建設分野 (10職種)	11 タイル張り、14 配管、18 石工、 19 左官、20 家具、21 建具、 22 建築大工、31 造園、 36 冷凍空調技術、40 とび
サービス・ ファッション分野 (10職種)	23 貴金属装身具、24 フラワー装飾、 25 美容、26 理容、27 洋裁、 28 洋菓子製造、30 西洋料理、 32 和裁、33 日本料理、 34 レストランサービス

閉会式の専用の会場であった。開会式では、趣向を凝らしたオープニングアトラクションが企画され、カラオケバトルのテレビ番組で活躍中のU18歌姫・鈴木杏奈氏によるライブ歌唱、佐野日本大学高等学校ダンス部によるダンス、和太鼓キッズ「ゆりかご」による和太鼓演奏、宇都宮海星女子学院・中学校の生徒による琴の演奏が行われた。今大会では国際大会のチーフエキスパート（CE）を7ヶ国から招聘しており、開会式に参加したCEからは、日本らしさを満喫できる開会式であり感銘したとの称賛があった。

さらに、各競技会場とその周辺では、ものづくりフェア2017（宇都宮駅東公園）、グルメ・特産品販売コーナー（マロニエプラザ）、AKB48チーム8スペシャルライブ（宇都宮市体育館）等の併設イベントが多数かつ盛大に開催され、来場者への栃木県の個性的なPRが強力に行われた。

JR宇都宮線の各会場最寄り駅からは無料のシャトルバスが会場へ運行されるとともに、各会場とその近隣には臨時駐車場が豊富に設けられた。その結果、全国大会の来場者数は19万8千人を超えたとの発表があった^[2]。

2.3 参加選手数

栃木県大会の参加選手数は、図2に示すように1,337名となり、前回の山形県大会の過去最多記録を塗り替えた。同図のように男性選手数は前回と同数であることから、19名ではあるが女性選手の躍進が記録更新に貢献した大会であったと言える。

ここで、先の表1の職種分野に従って今大会の参加選手数の割合を調べた結果が図3である。10職種以上を含む機械分野・機械系、建築・建設分野、サービス・ファッション分野の選手数がそれぞれ4分の1ないしそれ以上を占めていた。また、機械系と金属系を含めた機械分野は36%と最も参加人数が多かった。なお、これらの割合は全職種数（42）に対する各分野の職種数の割合におおよそ一致する。

さて、全国大会の選手団は都道府県が単位となって構成されることから、全国大会は都道府県対抗の大会でもあり、今大会の1,337名の内訳を都道府県

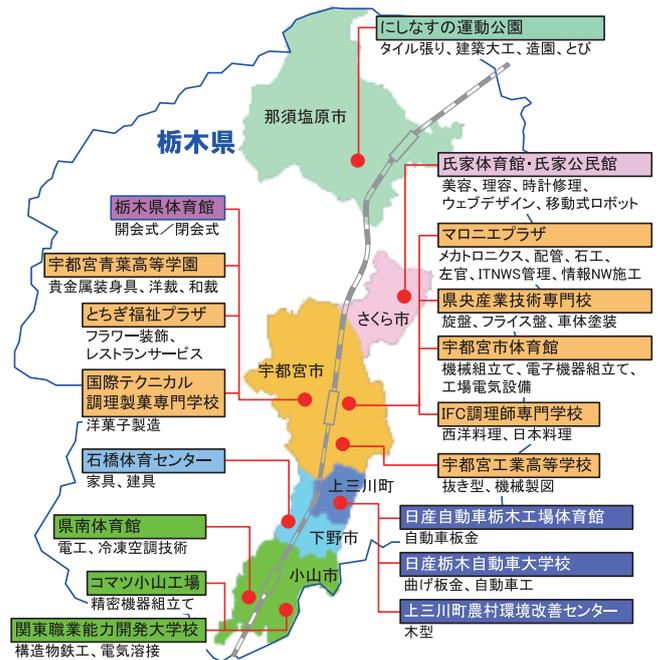


図1 競技会場と競技職種の組合せ

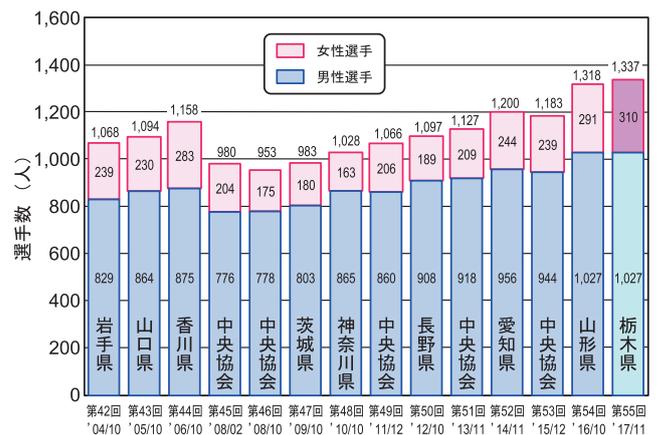


図2 技能五輪全国大会の参加選手数の変遷

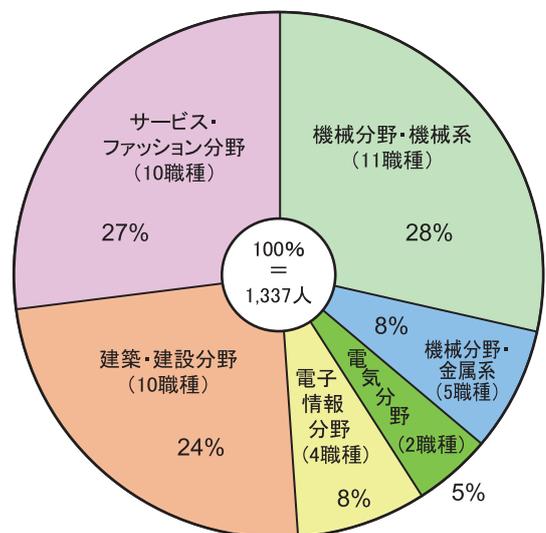


図3 参加選手数に占める職種分野の割合



図4 派遣選手団の人数とその割合

別に分析してみることは興味深い。そこで、派遣選手数の多い順に選手団の人数とその割合を調べた結果を図4に示す。最も多い愛知県は196人であるが、前回の200人とほぼ同数であった。2番目に多い栃木県の137人は、地元開催のために前回の50名から大幅な増員（約2.7倍）がなされた。3番目に多い茨城県の110人は前回の104人とさほど変わらなかった。また、神奈川県から沖縄県までの人数がほぼ横ばい状態となっていることは興味深い傾向である。

もう少し全国的な規模で参加選手数の内訳を見よう。図5は、今回の1,337人を総務省統計局の区分^[3]に従って10の地区別で集計した結果である。割合の多い順に、北関東・甲信地区、東海地区、南関東地区と続く。北関東・甲信と南関東を加えた関東エリアで約40%、また東海エリアで約20%であるから、両エリアだけで実に全選手数の60%を占めていることになる。この比率は、過去10数年の全国大会においてさほど変わっていない傾向であり、言い換えれば、派遣選手団の地域別特色は日本の産業構造マップに大きな変化が起きていないことを物語っていると見えよう。

次に、各職種の参加人数と競技日程を競技会場別に詳細に示すと表2のようになる。競技課題が事前公表でかつ参加選手数の多い職種では、2~8グループに分かれて競技を実施している。公式会期に先行して競技を実施した職種は、機械組立て、旋盤、フライス盤、抜き型ほかの7職種であった。特に、機械分野の職種が多いことは特徴的である。また、西洋料理と日本料理は、競技会場を共有したため、西

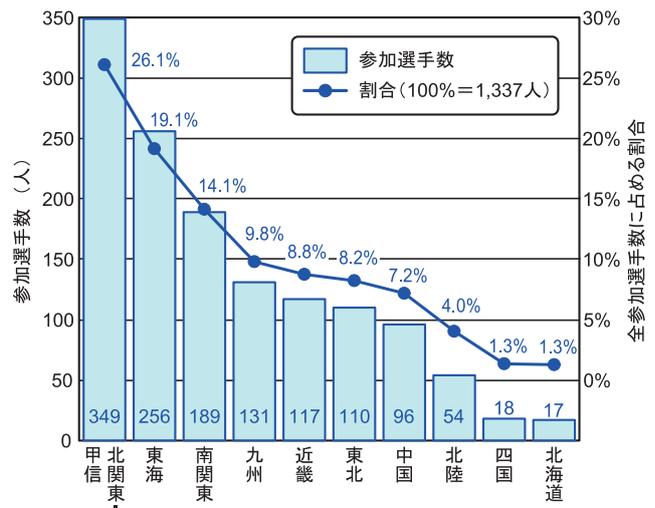


図5 派遣選手団の地域別特色

表2 各競技職種の選手数と競技日程

市町	競技会場	競技職種 (職種番号・職種名)	選手数			競技日程(平成29年11月)							
			男	女	計	19日	20日	21日	22日	23日	24日	25日	26日
宇都宮市	マロニエプラザ	04 メカトロニクス	82	2	84								◎◎
		14 配管	50	2	52								◎◎
		18 石工	8	0	8								◎◎
		19 左官	12	5	17								◎◎
		37 ITNWS管理	10	0	10								◎◎
	宇都宮市体育館	38 情報NW施工	23	1	24								◎◎
		01 機械組立て	45	0	45						A	B	◎◎
		15 電子機器組立て	46	4	50								◎◎
		17 工場電気設備	12	2	14								◎◎
		06 旋盤	51	2	53	A		B		C			◎◎
県立産業技術専門校	07 フライス盤	48	1	49		A	B	C	D			E	
	35 車体塗装	8	1	9								◎◎	
宇都宮工業高等学校	24 フラワー装飾	6	51	57								◎◎	
	34 レストラサービス	4	17	21								◎◎	
	02 抜き型	37	0	37			A+B	C+D	E			◎◎	
宇都宮青葉高等学校	05 機械製図	42	6	48								◎◎	
	23 貴金属装身具	1	8	9								◎◎	
IFC調理師専門学校	27 洋裁	1	23	24								◎◎	
	32 和裁	0	15	15								◎◎	
国際ホテル調理製菓専門学校	30 西洋料理	26	26	52		A	B	C	D			◎◎	
	33 日本料理	50	23	73								◎◎	
小山市	28 洋菓子製造	6	23	29								◎◎	
	16 電気	49	1	50								◎◎	
	36 冷凍空調技術	30	5	35								◎◎	
	08 構造物鉄工	22	0	22				A			B	◎◎	
那須塩原市	09 電気溶接	38	0	38	A		B		C			◎◎	
	03 精密機器組立て	16	2	18								◎◎	
氏家市	11 タイル張り	9	0	9								◎◎	
	22 建築大工	90	5	95								◎◎	
	31 造園	43	9	52								◎◎	
	40 とび	18	1	19								◎◎	
	25 美容	16	35	51								◎◎	
下野市	26 理容	16	14	30								◎◎	
	39 ウェブデザイン	17	5	22								◎◎	
	41 時計修理	10	6	16								◎◎	
	42 移動式ロボット	12	0	12								◎◎	
上三川町	20 家具	22	9	31								◎◎	
	21 建具	3	1	4								◎◎	
	12 自動車板金	25	0	25								◎◎	
	13 曲げ板金	7	1	8								◎◎	
上三川町	29 自動車工	7	0	7								◎◎	
	10 木型	9	4	13								◎◎	

洋料理職種のほうが公式会期前に全競技を終了した。競技会場が分かれば、全職種について公式会期中の観戦が可能となったはずであり、惜しまれる。

これに対し、競技課題に当日公表が含まれる職種では、参加選手数が多い場合でも一堂に会して競技を実施する必要があった。同表のメカトロニクス、電子機器組立て、機械製図等がこれに該当する職種である。

ところで、表2の42職種の参加選手に関しては、都道府県が人数を適切に配分して派遣しているわけではない。実情は都道府県の産業構造に大きく依存しているものと想像される。そこで、先に掲げた表1の5分野2系の割合を、図4に掲げた派遣人数の多い10都府県について詳細に調べた結果が図6である。ここで、同図の最下欄の「選手数全体」とは、表1に示した分野の職種数を42職種中に対する割合で示したもので、もし都道府県が人数を比例配分して派遣できるならば、いわゆる理想的な標準割合に相当する。同図を見るとわかるように、愛知県、茨城県、神奈川県、長野県、大阪府、静岡県では機械分野（機械系と金属系の和）が40%以上を占めている。その反対に、機械分野を除く他分野の総和が多いのは、栃木県、埼玉県、東京都、沖縄県である。さらに、埼玉県は建築・建設分野が約50%を占め、東京都と静岡県はサービス・ファッション分野が40%を上回っている。したがって、これらの都府県では、割合の多い職種分野において相互に白熱した競技が行われたものと推察される。なお、理想的な標準割合になっている都府県は見られないが、強いて挙げれば、長野県選手団がおおよそ近い分野構成であると指摘できよう。

3. 競技成績と都道府県の活躍状況

11月27日（月）の午前9時半から開催された閉会式において、全42職種の選手成績と都道府県選手団の成績の発表及び表彰が行われた。この表彰式は、競技結果が選手や選手団に会場で初めて知らされる「サプライズ方式」であった。全国大会の表彰対象は次のとおりである。

1) 各職種の選手個人を対象とした表彰

競技成績が優秀な選手個人には主催者賞及び厚生労働大臣賞が授与される。主催者賞（賞状及びメダ

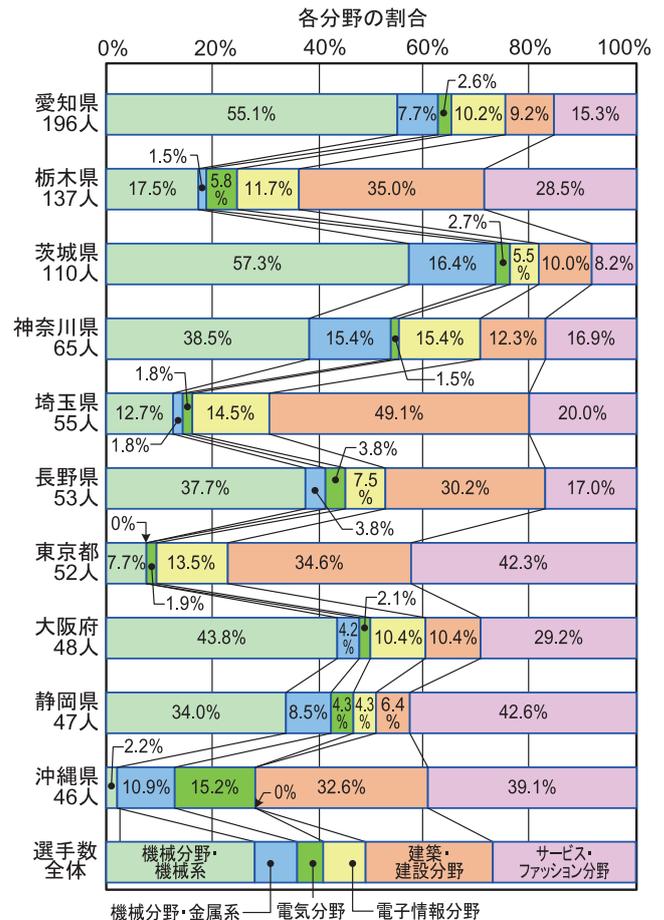


図6 派遣選手数の多い都府県の職種分野構成

ル)には第1位から第3位の者に授与する金賞、銀賞、銅賞と、第3位の成績に準ずる者に授与する敢闘賞があり、金賞受賞者のみが厚生労働大臣賞（盾）の表彰対象となる。栃木県大会では42職種の競技が実施され、このうちメカトロニクスと移動式ロボットの2職種が2名1組の競技であるため、金賞と厚生労働大臣賞の対象者数は44人であった。銀賞から敢闘賞までは、成績状況に応じて複数名が受賞対象になる場合や、該当者なしの場合がある。

2) 都道府県選手団を対象とした表彰

選手団の成績は、派遣した選手が受賞した主催者賞の個数を基にして評価され、成績に応じた賞（賞状と盾）が授与される。これらの賞には4種類があり、最も優秀な成績を収めた選手団（単一）を対象とした最優秀技能選手団賞（厚生労働大臣賞）、優秀な成績を収めた選手団（複数）を対象とした優秀技能選手団賞（厚生労働省人材開発統括官賞）、これらに次ぐ上位成績を収めた選手団（複数）を対象とし

た中央職業能力開発協会会長賞（特別賞）及び全国技能士会連合会会長賞（特別賞，第52回全国大会より授与）である。

3.1 全42職種の成績結果

栃木県大会の優勝者と入賞者の氏名や所属ほかの情報は，厚生労働省のホームページ^[4]または中央職業能力開発協会のホームページ^[1]に掲載されているため，詳細についてはこれらを参照していただきたい。本稿では，むしろ都道府県の活躍状況とメダルの総数に着目して全42職種の成績結果を振り返ってみよう。

表3は，42職種について金賞を受賞した都道府県名と職種ごとの主催者賞の総数を集計した結果である。金賞の獲得数が多い順に，愛知県が9職種（ $9/42=21.4\%$ ），茨城県が7職種（ $7/42=16.7\%$ ），栃木県が4職種（ $4/42=9.5\%$ ）となった。また，金賞の受賞率は3.3%（ $=44/1,337$ ），銀賞は6.8%（ $=91/1,337$ ），銅賞は7.1%（ $=95/1,337$ ），敢闘賞は16.4%（ $=219/1,337$ ）であった。この受賞率から，全国レベルの大会において銅賞以上の荣誉ある成績を残すためには，並大抵でない訓練を要することが窺える。

3.2 都道府県選手団の成績結果

表4は，主催者賞の受賞状況を上位16の都道府県選手団について整理した結果である。同表は，金賞，銀賞，銅賞の数をソートキーとして，これらの多い順に並べ替えて示している。獲得したメダル総数（金賞から敢闘賞までの和）で上位の3選手団を比較すると，第1位の愛知県と第2位の茨城県，また茨城県と第3位の栃木県の間には，メダルの獲得総数に倍半分の差が見られる。しかし，これら3県は，図4に示したように選手団の構成人数が大きく異なっている。そこで，構成人数を獲得したメダル総数で除した値を「有効動員数（人/個）」と定義して評価してみると，愛知県は2.13人/個，茨城県は2.00人/個，栃木県は4.28人/個となる。すなわち，愛知県と茨城県の有効動員数は良好でありさほど変わらないが，栃木県の有効動員数は2倍以上を要したことがわかる。また，2人を派遣してそのうちの1人がメ

表3 全42職種の主催者賞受賞状況

職種番号・職種名	金賞	銀賞	銅賞	敢闘賞	計	選手数
01 機械組立て	愛知県	3	3	7	14	45
02 抜き型	愛知県	3	3	7	14	37
03 精密機器組立て	長野県	2	2	4	9	18
04 メカトロニクス(2名1組)	茨城県2	6	4	12	24	84
05 機械製図	茨城県	3	3	8	15	48
06 旋盤	茨城県	3	2	8	14	53
07 フライス盤	茨城県	3	3	8	15	49
08 構造物鉄工	愛知県	3	3	4	11	22
09 電気溶接	兵庫県	2	3	8	14	38
10 木型	愛知県	2	1	2	6	13
11 タイル張り	山口県	1	1	1	4	9
12 自動車板金	群馬県	1	該当無	7	9	25
13 曲げ板金	広島県	1	1	1	4	8
14 配管	栃木県	3	3	8	15	52
15 電子機器組立て	愛知県	3	3	8	15	50
16 電工	兵庫県	3	3	8	15	50
17 工場電気設備	茨城県	2	3	1	7	14
18 石工	香川県	1	2	該当無	4	8
19 左官	岩手県	3	2	2	8	17
20 家具	埼玉県	3	3	6	13	31
21 建具	北海道	1	該当無	該当無	2	4
22 建築大工	新潟県	3	3	12	19	95
23 貴金属装身具	山梨県	1	1	1	4	9
24 フラワー装飾	山口県	1	3	9	14	57
25 美容	茨城県	2	3	7	13	51
26 理容	栃木県	2	2	8	13	30
27 洋裁	山形県	3	3	5	12	24
28 洋菓子製造	栃木県	3	3	6	13	29
29 自動車工	神奈川県	2	該当無	該当無	3	7
30 西洋料理	長崎県	2	3	9	15	52
31 造園	福岡県	3	3	8	15	52
32 和裁	奈良県	1	2	3	7	0
33 日本料理	群馬県	3	3	10	17	73
34 レストランサービス	栃木県	2	3	4	10	21
35 車体塗装	愛知県	1	1	1	4	9
36 冷凍空調技術	長野県	3	3	3	10	35
37 ITネットワークシステム管理	愛知県	該当無	3	該当無	4	10
38 情報ネットワーク施工	京都府	3	2	6	12	24
39 ウェブデザイン	宮城県	1	2	5	9	22
40 とび	東京都	1	1	6	9	19
41 時計修理	長野県	2	3	2	8	16
42 移動式ロボット(2名1組)	愛知県2	該当無	該当無	4	6	12
合計	44	91	95	219	449	1,337

表4 都道府県選手団の主催者賞受賞状況

都道府県	金賞	銀賞	銅賞	敢闘賞	計
愛知県	9	23	22	38	92
茨城県	7	13	6	29	55
栃木県	4	4	7	17	32
長野県	3	5	5	6	19
兵庫県	2	2	3	8	15
山口県	2	2	1	5	10
群馬県	2	1	3	7	13
神奈川県	1	6	8	8	23
埼玉県	1	6	5	8	20
東京都	1	5	2	6	14
岩手県	1	4	1	7	13
広島県	1	3	2	7	13
山形県	1	2	2	4	9
奈良県	1	2	2	1	6
北海道	1	1	2	4	8
新潟県	1	1	1	8	11

ダルを獲得できるという愛知県と茨城県の有効動員数は驚異的であるとも受け止められ、両県が優秀な青年技能者を豊富に抱えているという証であろう。

栃木県大会では表4のメダル獲得数を基にして、各種選手団賞の選考が行われた。その結果、最優秀技能選手団賞は愛知県選手団、優秀技能選手団賞は茨城県、栃木県、長野県の3選手団、中央職業能力開発協会会長賞は神奈川県、埼玉県、東京都の3選手団、全国技能士会連合会会長賞は兵庫県、岩手県、山口県の3選手団にそれぞれ授与された。

ところで、表4の結果からは各都道府県がいずれの職種分野で活躍していたのかわからない。そこで、表4のメダル獲得数を、先に示した表1の職種分野ごとに分類して集計し、その獲得総数で順位付けした上位5都道府県の結果を表5に示す。同表を見ると、愛知県選手団は建築・建設分野を除く5分野において第1位または第2位にあることから、これらの分野の青年技能者の育成に力を入れていることがわかる。茨城県選手団は機械分野の2系で愛知県選手団と優劣を競い合っているが、分野4から分野6においては、選手を派遣（図6参照）しているものの、入賞には至っていなかった。栃木県選手団は機械分野を除く残りの4分野で第1位または第2位にあり、よく健闘していたと言える。これには、栃木県選手団の職種分野の構成割合（図6参照）が功を奏したものと考えられる。神奈川県選手団は3分野において第3位までではあるものの健闘している。その他の都道府県選手団については、最多でも2分野への登場となっているが、第5位以内の成績結果を残していることから、各分野に特化した青年技能者を保有していると言えよう。

同表の集計結果を、職種分野ごとにもう少し詳しく分析した結果を図7から図12に示す。これらの図において、棒グラフは都道府県選手団が派遣した各職種分野の選手総数と受賞者総数を表し、折れ線グラフは有効動員数を表している。前述のように、有効動員数は、1個のメダルを獲得するために必要な派遣すべき選手数を意味しており、この値が1人/個に近いほど、その都道府県には優秀なレベルの青年技能者が存在すると考えて良い。

表5 都道府県選手団の職種分野別の受賞状況

順位	分野1	分野2	分野3	分野4	分野5	分野6
	機械系	金属系	電気	電子情報	建築・建設	サービス・ファッション
1位	愛知県	茨城県	栃木県	愛知県	栃木県	愛知県
2位	茨城県	愛知県	愛知県	栃木県	埼玉県	栃木県
3位	神奈川県	兵庫県	広島県	神奈川県	長野県	岩手県
4位	長野県	広島県	茨城県	埼玉県	北海道	東京都
5位	大阪府	神奈川県	兵庫県	東京都	千葉県	新潟県

図7の機械分野・機械系では、受賞者総数が上位の愛知県、茨城県、神奈川県、長野県の有効動員数がほぼ2人/個で非常に安定している。したがって、茨城県から長野県までの第2位以降の派遣選手数が愛知県と同数であったならば受賞者数は愛知県に匹敵したであろうと推定される。ただし、栃木県や群馬県はベストテン入りしてはいるが、有効動員数は

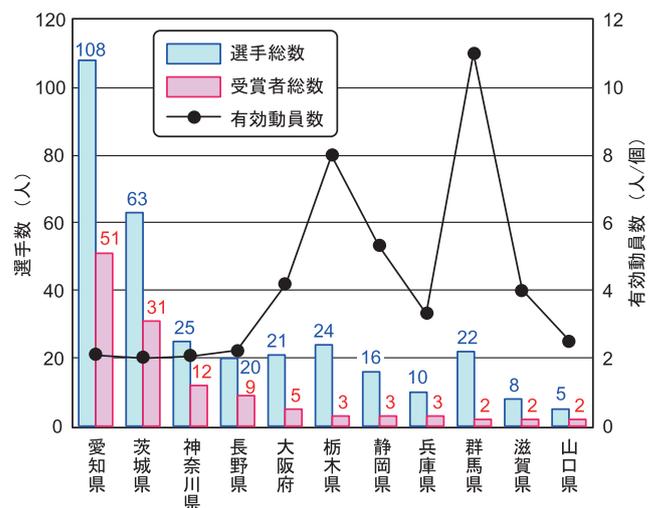


図7 機械分野・機械系の競技結果

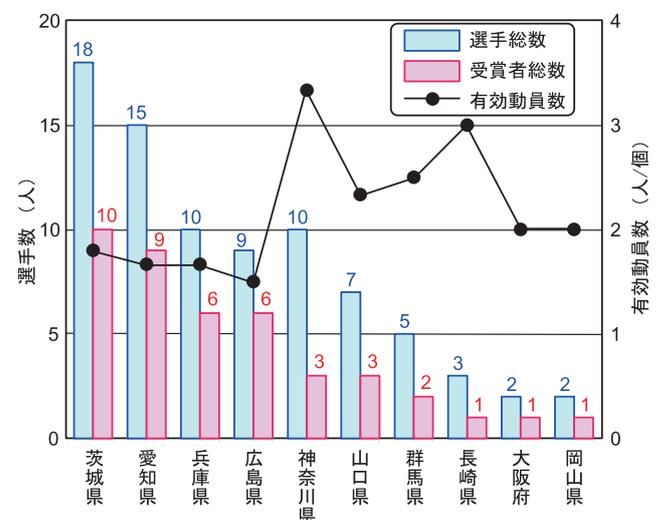


図8 機械分野・金属系の競技結果

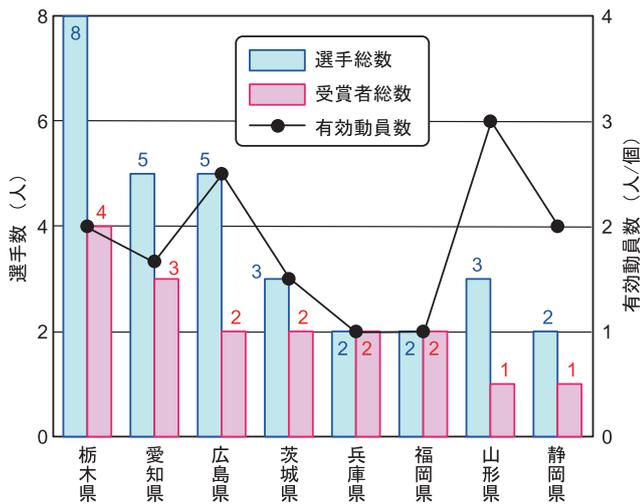


図9 電気分野の競技結果

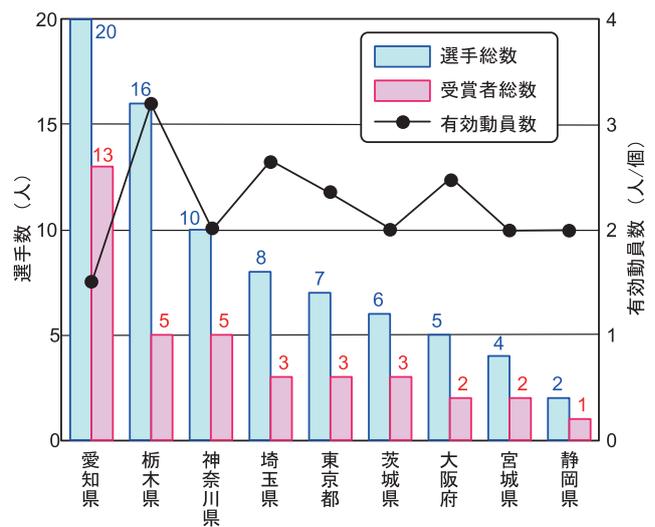


図10 電子情報分野の競技結果

8人/個を超えてしまった。

他方、図8の機械分野・金属系では、上位の茨城県から広島県において、有効動員数が2人/個以下となっている。このことは、たとえ1人の派遣であっても受賞の可能性が非常に高いことを意味する。したがって、これら4県の青年技能者の技能レベルは卓越していると受け止められる。

図9の電気分野の結果を見ると、兵庫県と福岡県は派遣人数がそれぞれ2人と少ないものの、全員が入賞するという快挙を成し遂げた。また、図10の電子情報分野の棒グラフの結果は、きれいに序列化されて現れたが、有効動員数を見てみると全分野中で最もばらつきが少なく安定していた。これは、同図の9都府県の選手間に大きな技能レベルの差がないことを意味していると思われる。

図11の建築・建設分野では栃木県が奮闘して第1位となったが、その有効動員数は東京都と並んで本分野中で最も多くなってしまった。図12のサービス・ファッション分野では、有効動員数に大きなばらつきが現れた。特に、栃木県、東京都、新潟県、沖縄県、広島県の5県は、有効動員数が3人/個を超えている。このため、次回の全国大会（沖縄県大会）に向けて本分野への対策を考えるべきであろう。

4. 競技運営に係る支援体制について

今回実施された42職種のうち、職業能力開発総

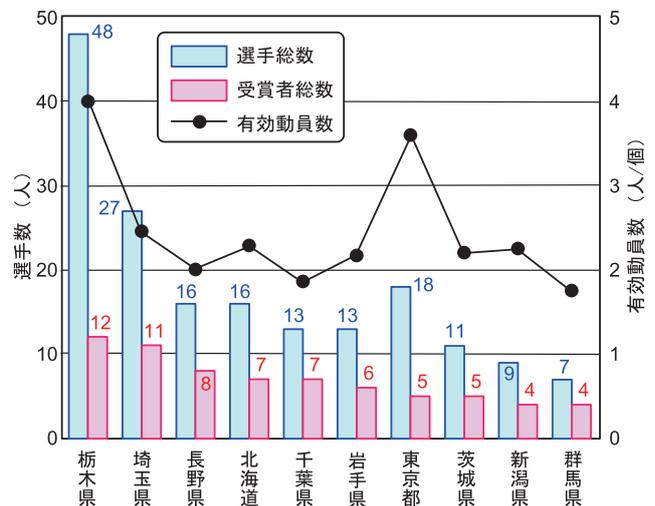


図11 建築・建設分野の競技結果

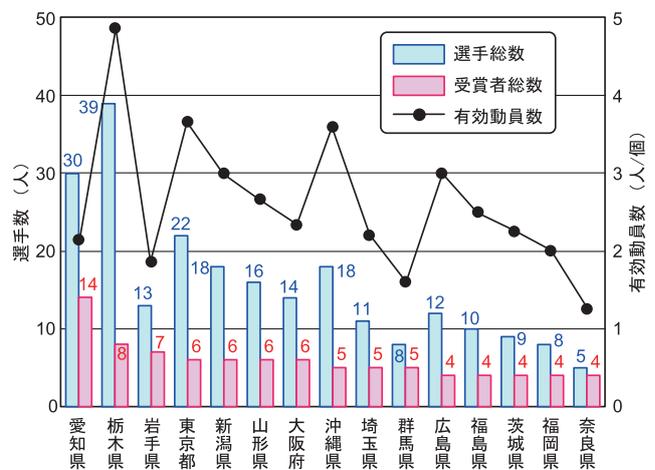


図12 サービス・ファッション分野の競技結果

合大学校（以降、「職業大」という。）の教員は17職種の競技運営を支援した。さらに、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構（以降、「機構」という。）の全国の施設である職業能力開発大学校、同大学校附属短期大学校、及び職業能力開発促進センター（ポリテクセンター）からは、教員と指導員が11職種の競技運営の支援に当たっている。これら機構の全国施設と職業大を合わせると、計18職種の競技運営を支援したことになり、職種数では実に約43%（=18/42）の支援率であった。

表6は、職業大と機構施設について、今回の18職種の競技運営に関わった支援人数の一覧を示している。職業大教員は12職種の主査を担当するとともに、各職種へ競技委員と補佐員を派遣した。なお、表中の機構施設の各人数は主査を含む競技委員の施設別総数である（補佐員を含まない）。

同表を見るとわかるように、職業大から計45名、機構施設から計24名の合計69名が栃木県大会の競技運営に参画した。機構組織全体を1つの競技支援団体として見た場合、この合計69名から成る支援体制は決して少ない人数とは言えないであろう。

以上のように、職業大と機構施設の教員と指導員は、技能五輪全国大会の公正な競技運営と厳正な成績評価に対する責務を果たしながら、参画者の一人一人が、日本の技能振興を推進するための極めて重要な役割を担っている。

5. おわりに

各種競技会やイベントの実施状況については、写真をふんだんに使用した報告がなされるのが常である。しかしながら、現在は「第55回技能五輪全国大会」等のキーワードでWEBを検索すれば、全国大会に関わる静止画や動画を容易く閲覧することができる時代である。このため、本稿では視点を変えて、WEB上に公表されている各種大会情報を用いて、それらから数値データを抽出し、図表によって定量的に視覚化し、分析することを試みた。その結果、筆者としては新たな発見や知見が得られたものと自負している。

表6 職業大と機構施設の競技運営支援状況

職種番号・職種名	職業大				機構施設			合計
	主査	競技委員	補佐員	小計	大学校	附属機関	センター	
01 機械組立て	1		1	2		1	1	3
02 抜き型	1	1		2	1	1	2	6
03 精密機器組立て	1	2		3				3
04 メカトロニクス	1	3		4				4
05 機械製図	1	1	1	3			1	4
06 旋盤					2	1	2	5
07 フライス盤		1		1	1		1	3
08 構造物鉄工	1	1		2	1		1	4
09 電気溶接	1	1	1	3				3
12 自動車板金		1		1	1		3	5
15 電子機器組立て	1	4		5				5
16 電工	1	2		3	1			4
17 工場電気設備	1	2	1	4			1	5
20 家具		1		1				1
22 建築大工		2	1	3				3
37 ITNWS管理	1	3		4			2	6
38 情報NW施工		1		1			1	2
42 移動式ロボット	1	1	1	3				3
合計	12	27	6	45	7	3	14	69

本稿のように競技結果を工学的視点から定量的に図表化して表すことは、技能とその醸成環境を分析する上で重要な領域に属するものと考えられる。すなわち、このような分析を継続することで、日本の技能水準の変遷・変化や特徴の抽出・把握、あるいは弱点やかたよりの発見とその対策の考案にたどり着くかもしれない。そうあることを祈念するとともに、技能を科学して分析する領域の発展に期待を寄せつつ、結びの言葉としたい。本稿が読者諸氏の参考となれば幸甚である。

〈参考文献〉

- [1] 中央職業能力開発協会ホームページ、最新の大会情報 第55回技能五輪全国大会、http://www.javada.or.jp/jigyuu/gino/zenkoku/saishin_taikai.html、(2018年1月10日閲覧)。
- [2] 平成29年12月9日付下野新聞朝刊。
- [3] 総務省統計局ホームページ、<http://www.stat.go.jp/index.htm>、(2018年1月10日閲覧)。
- [4] 厚生労働省ホームページ、第55回 技能五輪全国大会が閉幕しました、<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000186005.html>、(2018年1月10日閲覧)。